

## 1. 第5回国際シンポジウム

新学術領域研究第5回シンポジウムが、2011年7月7日（木）～8日（金）の日程で、北海道大学スラブ研究センターを会場として行われます。第1班が組織する今回の国際シンポジウムは、冷戦期のユーラシア国際関係をテーマとしています。大会のプログラムは、以下の通りです。当シンポジウムへの参加を希望される方は、新学術領域研究事務局宛（[rp@slav.hokudai.ac.jp](mailto:rp@slav.hokudai.ac.jp)）にご連絡ください。なおその際には、レセプションへの参加の有無も、合わせてご連絡願います。[組織委員長 ディビッド・ウルフ]

新学術領域研究第5回国際シンポジウム

### **Alliances and Borders in the Making and Unmaking of Regional Powers**

同盟と境界：地域大国を規定するもの

2011年7月7日（木）、8日（金）

北海道大学スラブ研究センター大会議室（403号室）

#### **Thursday, July 7, 2011**

9:30～10:00 welcome: MOCHIZUKI Tetsuo (SRC Director)

introduction: David WOLFF (SRC)

#### *Asian Alliance Systems*

10:00～12:00 session 1 The Opening Door: New Archival Evidence from Japan

開き始めたドア：日本からの新たなアーカイヴ

chair: ISHII Akira (Emeritus, Tokyo U.)

INOUE Masaya (Kagawa U.)

"Japan's Pursuit of a Modus Vivendi : Normalization of Sino-Japanese Relations and the Taiwan Issue, 1971-1972"

YOSHIDA Shingo (JSPS Research Fellow)

"Credibility Imperatives vs. Domestic Antimilitarism: Japan's Alliance Policies during the 1970s"

KUSUNOKI Ayako (Kwansei Gakuin U.)

"The Evolution of Arrangements for US Bases in Japan"

commentators: GABE Masaaki (Ryukyu U.) and Vojtech MASTNY (Parallel History Project)

12:00～13:30 lunch

13:30～15:30 session 2 "Hub and Spokes" Revisited: Korea, Taiwan, ANZUS

「ハブとスポーク」を考える：韓国、台湾、ANZUS の場合

chair: SASAKI Takuya (Rikkyo U.)

IZUMIKAWA Yasuhiro (Chuo U.)

"The Emergence and Evolution of the Hub and Spoke Alliance System in East Asia"

MATSUMOTO Haruka (Institute of Developing Countries / Institute of Asian Economies)

"The Taiwan Straits Crisis Viewed from ROC Archives"

Vojtech MASTNY (Parallel History Project)

"The ANZUS Experience and Security in Asia Pacific: A Cold War Legacy."

commentator: NAKAI Yoshifumi (Gakushuin U.); ENDO Ken (Hokkaido U.)

15:30～15:45 coffeekick

### *Borders in Asia*

15:45～18:00 session 3 China's Borders

中国の国境

chair: TBA

Sergey RADCHENKO (Nottingham U.)

"Carving up the Steppes: Borders, Territory and Nationalism in Mongolia, 1943-1949"

Soren URBANSKY (Freiburg U.)

"A Very Orderly Friendship: The Sino-Soviet Border under the Alliance Regime, 1950-1960"

Pierre GROSSER (Institut des Etudes Politiques)

"Chinese Borders and Indigenous Parallels: France, Vietnam, and the Korean Model"

LI Danhui (Beijing U.)

"New Chinese Evidence on Sino-Soviet Border Clashes"

commentator: Lorenz LUTHI (McGill U.)

18:30～ reception (Aspen Hotel)

**Friday, July 8, 2011**

10:00～12:00 session 4 Roundtable on Archives and Archival Projects

ラウンドテーブル「アーカイヴとアーカイヴ・プロジェクト」

*Japanese POW Project* TOMITA Takeshi (Seikei U.)

*Japan* GABE Masaaki (Ryukyu U.)

*Korea* KURATA Hideya (National Defense Academy of Japan)

*Russia* Sergey RADCHENKO (Nottingham U.)

commentator: SHIMOTOMAI Nobuo (Hosei U.)

12:00～13:30 lunch

13:30～15:30 session 5 New Recently-declassified Evidence on Sino-Indian Border Conflict

中印国境紛争：公開された証拠

chair: TBA

Lorenz LUTHI (McGill U.)

"Seeing Both Sides of the Himalayas: New Indian and Chinese Documentation"

James HERSHBERG (George Washington U.)

"U.S.-Indian Relations and the Sino-Indian Border War of 1962: New Evidence on John  
Kenneth Galbraith and the Downfall of Krishna Menon"

SHEN Zhihua (East China Normal U.)

"The Sino-Korean Border Agreement of 1962"

commentator: YOSHIDA Osamu (Hiroshima U.)

15:30～16:00 coffeekbreak

16:00～17:30 final discussion session

Preliminary Conclusions, Emerging Linkages, Unresolved Gaps and Future Agendas

## 2. 第4回全体集会「最終成果の出版に向けて」

第5回国際シンポジウムの翌日7月9日（土）に、最終成果の出版について議論する全体集会を開きますので、ご出席を予定くださるようお願いいたします。

総括班では、最終成果の出版に関して、担当の宇山さんを中心に、いくつかの出版社と交渉を進めてきました。その結果、このほど、ミネルヴァ書房が引き受けてくれることが決まりました。各班1冊の計6巻の刊行を、来年度に行うことを予定しています。今回の全体集会は、この出版に向けて、その内容について具体的に話し合う場となります。本領域研究のメンバーの方は、ほとんどの方が執筆者として想定されていると思いますので、ご出席くださるようお願いいたします。

現時点でのプログラムは以下のとおりです。このうち2と3の部分では、各巻のセールスポイントについて、各巻の編者の方などに説明していただきます。とくに、「世界システム」、「帝国」、「文明圏」など、本領域研究全体の課題との関連で、各巻がどのような貢献をしてくれるかについて、議論したいと考えています。報告者や演題を入れたプログラムは、6月後半までに、ホームページに掲載します。

なお、メンバー（メンバー外の執筆予定者を含む）の旅費は、総括班から出しますので、事務局（[rp@slav.hokudai.ac.jp](mailto:rp@slav.hokudai.ac.jp)）宛に早目にご連絡ください。

### 新学術領域研究第4回全体集会「最終成果の出版に向けて」

日時：7月9日（土）午後2時～6時

場所：北海道大学スラブ研究センター大会議室（4階403号室）

#### ①出版の概要について（午後2時～3時）

- ・趣旨説明
- ・執筆者・編者・総括班・事務局・出版社の役割分担と連絡体制
- ・執筆・編集・刊行スケジュール
- ・質疑応答・意見交換

#### ②各班の出版への取り組みについて（その1：午後3時～4時半）

第1班～第3班

- ・質疑応答・意見交換

#### ③各班の出版への取り組みについて（その2：午後4時半～6時）

第4班～第6班

・質疑応答・意見交換  
懇親会（午後6時半～）

### 3. 新学術領域プロジェクト研究員の今年度の勤務地

前年途中に採用された福田宏さんを除いて、今年新たに4名のプロジェクト研究員が決まりました。選考に当たっては、22名の応募者の中から厳正な審査が行われました。雇用期間は平成23～24年度の2年間です。

氏名	博士号取得大学	平成23年度勤務地	主たる研究協力班
三輪 博樹	筑波大学（単位取得退学）	早稲田大学	第2班
星野 真	神戸大学	北海道大学	第3班
福田 宏	北海道大学	北海道大学	第4班
小松 久恵	Jawaharlal Nehru University (India)	北海道大学	第5班
前田 しほ	北海道大学	北海道大学	第6班

### 4. 今年度公募研究の採択結果

平成23年度の公募研究の結果が決まりました。文科省の専門委員会による厳正な審査の結果、以下の研究が採択されました。研究期間は、平成23～24年度の2年間です。

研究課題：「東アジア諸都市におけるサブカルチャーの生産・流通・受容と若者の心理」

研究代表者：千野拓政

所属機関：早稲田大学大学院文学研究科

### 5. 各班の研究会情報

1班

班会議

プログラム未定

日時：未定

場所：北海道大学スラブ研究センター

2班

班会議

プログラム未定

日時：2011年7月9日（土）10：00～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

3班

比較大国論セミナー

報告者：Iikka Korhonen

(Head of Research, Institute for Economies in Transition, Bank of Finland)

報告タイトル：Forecasting Economic Developments in Major Emerging Markets: Some Preliminary Results

日時：2011年6月2日（木）16：30～18：00

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室（401号室）

班会議

プログラム未定

日時：2011年7月10日（日）10：00～15：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

4班

研究会（予定）

報告者：秋葉淳、佐々木紳

（テーマはオスマン帝国を中心とする比較帝国史）

日時：2011年7月9日（土）9：30～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

5班

「国家の輪郭と越境」会議

議題：「国家の輪郭と越境」中間報告とおよび成果刊行に向けた打ち合わせ

日時：2011年6月11日，12日 10：00～17：00

場所：千里朝日阪急ビル14階 11日／5号室，12日／3号室

※曜日によって部屋が変わりますのでご注意ください。

<http://www.senri-asahi-hankyu-bld.co.jp/accessmap.html>

6班

#### 班会議

プログラム未定

日時：2011年7月9日（土）10：00～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

#### Conference in Bangalore 2011

議題：Comparative Aspects on Culture and Religion: India, Russia, China

日時：2011年9月15日（木），16日（金）

場所：バンガロール文化社会研究センター(CSCS)セミナー室

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，阿部僚子

電話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メール [rp@slav.hokudai.ac.jp](mailto:rp@slav.hokudai.ac.jp)

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学スラブ研究センター